

東京工科大学医療保健学部臨床検査学科

栗原 由利子*[§] 細萱 茂実*

I. 東京工科大学の「実学主義」教育

東京工科大学は開学以来、実学教育を理念の中心に置いて学生の教育を行っている。実学とは実社会に出たときに役立つ広い知識や技術・スキルを指すが、「実学主義」は知識や技術だけでなく人間性を高める、即ち社会や経済あるいは技術が変わってもこれに適応できる柔軟な頭をもつことであり、こうした人材を育成することを理念としている。

II. 大学、学科の沿革と概要

東京工科大学は1986年東京都八王子の地に開学し、工学部の設立から始まる。1999年メディア学部、2003年にバイオニクス学部(2008年に応用生物学部と改称)を設置し、2010年に蒲田の地に医療保健学部とデザイン学部が設置された。医療保健学部新設時には看護学部、臨床工学科、理学療法学科、作業療法学科の4学科であったが、2014年に臨床検査学科が新設され、5学科での教育をスタートさせた。

医療保健学部のある蒲田キャンパスは東京の南端に位置しており、JR蒲田駅から徒歩2分の交通の便の良いところにある。併設校の日本工学院専門学校と敷地を同じくし、大学・専門学校の学生数を合わせ約8,000名が学んでいる。学生が講

義を受ける3号館は、講義室やPCルームなど設備も充実しており、500名を収容できる大講義室では、医療保健学部の全学生が一度に講義を受けるフレッシューズゼミや医学概論などが行われている。また12階には学生ラウンジがあり、羽田空港や東京スカイツリー、横浜や富士山まで見え、天気の良い日にはスカイガーデンに出ることができ開放的な雰囲気の中学生が憩いの場となっている(写真1,2)。



写真1 蒲田キャンパス3号館

*臨床検査学科 [§]kuriharayr@stf.teu.ac.jp



写真2 医療保健学部実習棟 蒲田キャンパス 12号館

III. 本学科の教育目標

臨床検査学科の教育目標は、日進月歩で進む医療を支える臨床検査の最新知識を学び、正しい診断を提供する臨床検査のエキスパートとなる有為な人材を養成することであり、本学部の基本理念である「自立・博愛・向上」に基づき以下のような人材を養成する。

1. 自立した臨床検査技師の育成

医療現場において担うべき役割を自ら判断し、患者と他の医療スタッフとの橋渡し役となる自立した臨床検査技師の育成のためには、専門性、ICTリテラシー、国際性などを付与・養成する教育環境を配置し、他学科との協力関係はもとより、応用生物学部など他学部との連携も図る。

2. 博愛精神に富む臨床検査技師の育成

医療行為は他者への理解、尊厳に基づく奉仕活動である。他学科との交流を通して医療活動で重視されるチーム医療、安全意識、コミュニケーションスキルなどを養成し、倫理観、博愛精神、協調精神に富み、コミュニケーション能力に優れた臨床検査技師を育成する。

3. 向上心に富む臨床検査技師の育成

臨床検査の分野にとどまらず、医療活動においては絶えざる新技術の導入がはかられている。また医療活動においては、医療スタッフ、患者、地

域との関係においても様々な経験と知識の蓄積が必要とされることは言うまでもない。このような要請にこたえるためには生涯にわたり技術的知識の向上を図り、医療環境での経験を積み、それを活かそうとする精神の涵養が必要である。このような精神を実習・演習などの教育を通して身に付けさせ、技術的、精神的に向上心に富む臨床検査技師を育成する。

IV. 本学科の教育上の特徴

1. 3C教育

本学では、Collaboration、Computer、Communicationを3つの柱とした3C教育を行っている。

Collaborationは本学部の他の4つの学科、看護学科、臨床工学科、理学療法学科、作業療法学科と協同し、チーム医療の実践力を身に着けるべく、1年次から合同講義を行い、同じ医療に関わるチームとしてのそれぞれの役割を学んでいる。また早期教育として行われているフレッシューズゼミでは他業種の理解を深める目的でそれぞれの職業紹介を行っており、1年次後期にはグループ活動を通してチーム形成能力の動機付けを目的とし、少人数のチームに分かれて研究テーマを決め、ポスター発表を行うActive Learningを行っており、自ら問題を見つけ、解決する能力を習得する(写真3)。



写真3 ポスター発表

Computer 教育 (ICT (情報通信技術) 教育) は、本学の医療保健学部の最大の特徴としてあげられる。医療機関は高度に情報化されており、電子カルテを始めとして用いられる医療機器はすべてコンピュータで管理されており、医療現場における医師やメディカルスタッフにとっては ICT を習得していることが不可欠である。本学がもともと工学部から始まったこともあり特に力を入れている分野である。コンピュータ概論やコンピュータリテラシーなどの講義演習によって、昨今のコンピュータ技術、通信技術を学び、医療現場に活かされている技術に関してより深く学んでいく。

Communication skill の育成のために、独自のプログラムとして、PBL (Project (problem) based learning) や Active learning を多用した授業を行っている。国際的なコミュニケーション能力を高めるために、英語の授業は能力別クラスに分かれ、ネイティブスピーカーによる会話中心の授業が進められており、高校までの英語の授業とは異なるより実践的な教育が行われている。また海外に視野を広げるために、前期・後期に各1週間、インターナショナルウィークを設け、留学経験のある学生の発表が行われたり、教員による国際学会での発表報告や海外での資格取得方法を紹介したり、海外から講師を招いて講演を開くなど、幅広く活躍する人材の育成に力を入れている。

3C 教育以外にも、Critical thinking のできる医療従事者の教育も重視している。臨床現場での実

践力とともにさまざまな課題に対する問題解決能力や人間力を養う土壌をはぐくまなければならない。そのための手段として PBL、ループリック、臨地実習前 OSCE への取り組みなど細かな工夫を試行し授業の充実化をはかっている。

2. 実学主義に基づく教育体制

本学が掲げる「実学主義」のもと、社会人基礎力と豊かな教養をはぐくむ教養教育科目が充実しており、各専門につながる架け橋的な役割も果たす。専門科目においては、知識や技術あるいはスキルの教育のため、教員は臨床検査の現場経験者を中心に、学内実習施設は最先端の医療現場と遜色のない機器・設備を揃え、臨地実習施設は総合病院から専門医療機関まで多彩な施設との協力連携体制をとっており、学生は様々な環境で実践を経験することが可能である (写真4)。



写真4 実習風景



写真5 臨床検査学科の教員

3. ダブルライセンス取得

臨床検査学科卒業後に併設する日本工学院専門学校臨床工学専攻科一年制に進学することで、臨床工学士国家試験受験資格を取得可能である。入学金免除などの特典もあり5年間という短期間で「臨床検査技師+臨床工学士」のダブルライセンスを取得できる。

さいごに

本学科は2014年4月に設置され、1期生84名

を迎えた。スタートしたばかりで手探りの状況が続くなか、教員と学生が話し合い、協力し合い、日々努力している。学生個人の能力にあったきめ細かな指導を行うことで、学生と教員の距離は近く、対話しやすい環境を提供し、教育環境の充実化をはかるようにしている。4年後の国家試験100%合格、就職率100%、医療現場での活躍をめざし、明るい未来に向かって日々精進する所存である(写真5)。